第１２期 第２回 鳥取市校区審議会 議事録

１　日　時　　平成２６年２月４日（火）１０時００分 ～１２時１５分

２　会　場　　鳥取市役所　本庁舎　４階第３会議室

３　出席者　　【委員】

渡部昭男委員(会長)、岩崎憲一委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、片山敬子委員、
有本健一委員、吉澤春樹委員、米原隆生委員、上山弘子委員、神谷正恵委員、
有本喜美男委員、横西経雄委員、牛尾柳一郎委員、山本源五郎委員、平尾司砂委員、
谷口好宏委員

【アドバイザー】

倉持裕彌アドバイザー

【教育委員会（事務局）】

木村正人次長、河井登志夫次長、長谷川誠一参事、橋本浩之課長補佐、小谷昇一主幹、
清水圭二主任

４　会議次第

１ 開　会
２ 委員自己紹介
３ 会長あいさつ
４ 議事録署名委員の選任
５ 報告
　（１）第１回校区審議会概要について
　（２）第１２期校区審議会の活動報告
　（３）検討が急がれる校区の状況
　（４）千代南中学校２，３年生等に対する学校統合意識調査について
　（５）気高中学校、青谷中学校の改築に伴う地元要望について
　（６）自民党の「教育再生推進法案」について
　（７）ＰＲ動画「学校のカタチ」の制作ついて
６ 議事
　（１）審議方針について
　（２）審議スケジュール（案）について
　（３）その他
７ その他
８ 閉　会

５　議事の概要

事務局　　それでは、第１２期校区審議会の第２回目の会を開会させていただきます。

本日は委員全員の出席となっています。第１回目の会でご都合が悪くて出席出来なかった委員さんもいらっしゃいますので、まずは自己紹介をしていただき、その後、渡部会長さんにご挨拶をいただき、進行をお願いしたいと思います。

今日の資料の表紙の裏に名簿を載せておりますが、名簿の上から順番に自己紹介をお願いしたいと思います。

〔前回欠席委員の自己紹介〕

会　長　　今日は、議事にもありますように、第１２期の審議の方針とスケジュールについて、委員の皆さんで共有認識が出来たらと思っています。

議事録署名人ですが、順番になっていまして、平尾委員さんと谷口委員さんということでお願いしたいと思います。
それでは、さっそく報告事項に入りたいと思います。事務局の小谷さんの方からよろしくお願いします。

事務局　〔報告事項の説明〕
〔ＰＲ動画「学校のカタチ」の上映と説明〕

会　長　それでは、報告事項について、質問など何かありましたらお願いします。

委　員　前回の審議で、自治会の区長や老人会長、婦人会長などの交代によって、年によって賛成や反対が逆転するといった内容が出ていました。
検討の対象校区では、この内容だけは継続して委員をしていただく形を考えていただけたら、話がスムーズに行くのではないかと思いました。

会　長　そういう工夫が出来るかどうかですね。他にはどうでしょうか。福部地域の方で何か付け加えることがありますか。

委　員　アンケート調査をしまして、学校は絶対残そうというのは出ましたけど、これからどういう形にしていこうかとか、どういう風に子どもたちと関わっていこうかという内容はこれからの話し合いになります。もう少し時間が掛かると思います。
どういう形にという話になった時、小中一貫校もあり統廃合もあるかも知れないとなってくると、小中一貫校では、結局、子供の数の課題は解決されないので、それで果たしていいのかといった戸惑いの声も結構聴かれました。
ですから、問題解決策としては必ずしも成り立たないので、考え方を一から改める必要があるのかなあと思っています。
私たちはどういう思いを持って進めていけばいいのかが、分からなくなりつつあるという部分がありました。福部ではそういう状況です。

会　長　先ほどの学校の形の問題と校区とか統廃合の問題が、どう重なってくるのかを、また後ほど議論していきたいと思います。

委　員　千代南中のアンケートや作文は、何故２年と３年だけが対象なのですか。何か意図があったのですか。大した人数じゃないので、１年もやれば良かったと、私は直感的に思いました。
２年と３年は、確かに統合に直接的に関わった生徒で、新１年生は６年生を卒業して入学したことは分かりますが、それでも統合に関する素直な思いを、１年なりの動向として捉えても良かったと思います。
次に、意見交換会の資料が添付されていますが、発言内容の説明がなくて、今後もそのように進めるのかどうか教えてください。というのは、特に大事なことはこういう点がありましたと、口頭での説明がないと臨場感がないです。事務局の生の声で補強してもらいたいと思います。
第１回の審議会で、福部の教育を考える会の報告があり「中学校で小規模転入制度が運用できないか」という意見に対し、事務局は「可能性を否定するものではない。ご意見があったことは受け止め、校区審議会や教育委員会にも報告していきたい」と回答していますね。こういう重要なことは、資料を配って読んでくださいではなく、大事なところは説明した方が良いと思います。今後、地域の意見の重要度は増していくわけで、報告の項目に入っている以上、説明すべきだと考えます。今後の扱いについて、事務局の見解を聞きたいと思います。

事務局　　地域の説明会なんかに出掛けると「統合した学校の様子はどうか」という質問をよく受けます。２年と３年に限ったのは、まさに用瀬中、佐治中に入学し、統合して千代南中の生徒となったということで対象としたものです。
１年についても、人数も多くないし書いてもらえばとのご意見ですが、入学して１年も経っていませんし、まだこれからも聞く機会もあるだろうと、今回の対象から外したものです。

会　長　　作文については、１年生も入りうるということですか。

事務局　　はい。それは可能だと思います。

会　長　　それから、意見交換の内容説明について事務局から補足があれば。

事務局　　委員のご指摘のとおりだと思います。次回からは、もう少し掘り下げる形で、内容を説明させていただきたいと思います。

委　員　　新しい委員さんに、意見交換会の発言一覧は配ってあるのですね。

事務局　　去年の４月以降の分を全てお配りしています。

委　員　　はい。ありがとうございます。

委　員　　ＰＴＡの会長さんとか役員が１年２年で変わってしまうと、地域の役員をされていれば、考える組織の委員として残る機会もあるのですが、実際は地域の主だった役までやっていないのが現状で、結局は組織から外れてしまうという可能性が大いにあります。
せっかく、一番学校のことに関心がある存在でありながら、意見を言える場が無くなってしまうことになります。こういう組織を作る時には、是非とも現のＰＴＡ会長に加えて、前の会長やＯＢなども残れるようにしてくださいと、対象の学校の会長さんにお願いしています。そうした位置付けを地域でしっかりしていただきたいなあと思っています。
それから、先ほどのＰＲ動画の中で、子供の発言に対して「ブブー」という音が入っていましたよね。その意見は不正解との意味合いでしょうけど、これから皆さんに議論をお願いするＰＲ動画なのに、この意見はだめですよというニュアンスはどうかと思います。
どんな意見でも「ああそんなこともあるか」と、他の人もしゃべりやすくなるのではないかと思います。これから、内容をさらに工夫されるとのことですので、否定しないという方向でお願いします。

事務局　　ありがとうございます。

会　長　　別の音声を入れるか・・・、もうちょっと工夫してください。

事務局　　どんどん変わっていくと思います。例えば、小学生の意見だけでなく、中学生の意見もということで、準備を進めています。

会　長　　議事の方のスケジュールですが、千代南中との懇談会も予定出来たらと考えています。

それでは、報告事項はよろしいですか。協議の方にも関連しますので、協議題の説明をしていただいて休憩に入ります。それではお願いします。

事務局　　それでは、議事の説明をさせていただきたいと思います。議事１ですが、第１回の議事の際「これまでの議論を踏まえた上で審議を進めるべき」「考える会の立ち上げを地域に任せていては、時間が掛かるのでは」「学校と地域は今でも密接に結びついており、学校との連携を深めてやっていくのがいいのでは」といったご意見がありました。

そこで、前期からの申し送り事項も踏まえて、「今後の審議をどのようにしていくのか」「学校や地域へのアプローチをどうしていくのか」といったことをご議論いただけたらとの思いで挙げさせていただきました。

議事２は、議事１に連動して変わってくると考えております。現時点で確定したものではないですが、やはり開校から１年を経過した千代南中の視察は、今後の校区審議の役に立つのではと考えて、６月のスケジュールに入れております。

また、倉吉市の視察を入れていますけど、審議室で倉吉市の学校統廃合の取り組み状況を視察した際、倉吉の教育長さんから「鳥取市の校区審議会委員の皆さんと意見交換会をしてみるのも面白いかも知れませんね」との提案がありまして、本決定ではないですが入れておきました。

以上でございます。

副会長　　報告事項の中に、中心市街地の学校のあり方の議事が出てこないですね。それをどのように、スケジュールの中に入れていこうと考えているのでしょうか。

事務局　　前期では、緊急度Ａの校区に関して精力的に取り組んできたところですが、議事１の申し送り事項（２）で「緊急度の高さに応じつつ、全市域を対象に進めることとする」ことを示しています。

中心市街地のあり方を含め、緊急度Ａ以外の校区について、どのように進めていくべきかをご議論いただきたいという思いで、資料を作らせていただきました。

会　長　　第１回の時の資料に、緊急度ＡとかＢとかの課題一覧がありますが、資料をお持ちでない方がいらっしゃるようですから、休憩の間に事務局で用意していただけますか。では、５分ほど休憩いたします。

（休憩）

会　長　　第１回資料の２１ページを見てください。１週間前に事務局と正副会長とで打ち合わせをしまして、２年間のスケジュールのようなことを話し合いました。

大きく分けて、３分の１ずつかなと考えています。まず、今までＡ１の部分から議論を進めてきましたが、そういうアプローチも含めて、〈Ｉ〉今年の６月ないし９月くらいまでに、検討を急ぐべき問題についての大きなテーマを設定してみたいということです。

今、だいたいテーマが見えてきたのは、まず、⑴福部があります。そして、⑵鹿野中との関わりで西部地域の問題。結論的には、西部地域の３中学校は２校を改築するにせよ、どんな解決すべきテーマがあるか協議したいということです。それから、⑶江山中校区の小規模小の問題。さらに、⑷過大規模校については、第１１期では取り組みませんでしたが、実は深刻な問題が予測されていて、南中の教室不足に対して、どんなテーマを掲げて取り組んでいくのかということです。次に、⑸通学区域の問題で、千代川西側の南城北団地の校区をどのように考えるかです。

ですから、第１１期ではＡ１、特に過小規模の小学校を中心にやりましたが、第

１２期はむしろテーマが明確になっていくところについて、そのテーマを協議した上でアプローチしたらどうかということです。

その中で、先ほど出ていました、⑹中心市街地の小学校の問題を、テーマの一つに入れるかどうかも考えていければと思います。

次回あたりでテーマ設定が深まれば、６月くらいにある程度整理して公表するか、少し時期がずれれば９月あたりだろうと思います。

次に、〈Ⅱ〉ある程度テーマを設定し公表出来た地域に出掛けて、まさに地域との懇談や協議を進めていくのが、真ん中の３分の１となります。

残り３分の１で、〈Ⅲ〉エリアについて大きく５つのテーマ、中心市街地を入れれば６つですが、そのテーマについて、ある程度の学校の形や方向性が見えたところから答申を出していきたいと思います。

ある程度、地域との協議が進み、「学校の形」として「抱える課題に対してこうしようというもの」が見えてきた校区から、答申していきたいということです。

もう少し踏み込んで、ご紹介したいと思います。まず、⑴福部ですが、確かに小中一貫という形で進んでいるようです。その場合に、湖南学園が一貫を進めた成果と課題について、やはりしっかり検証する作業が必要となってくると思います。

その上で、小中一貫校では解決しない問題は確かにあるので、例えば、校区を超えた中学生同士のインターネットでの交流とか、校区を超えた交流行事とか討論会とか、そういう形を想定していかなければならないでしょう。小中一貫校で全てが解決するものでなく、小中一貫校に何をプラスすればいいのかが、見えてこなければいけないというのが１点です

さらに、⑵鹿野で教育を考える会が立ち上がろうとしています。一つの選択肢に小中一貫校も出ております。ただし、西部地域に関しては、この１年間の議論を無駄にしないという意味でも、校区を超えた教育実践や、放課後活動等の取り組みの議論を進めることが出来ないか考えています。

子供たちの意見の中にも、タブレット端末で校区外の人と、もっとコミュニュケーションがしたいといった意見がありました。２校の校舎改築は当然進めるけれども、３つの中学校区で協働した取り組みが出来ないだろうか、というのが西部地域のもう一つのテーマではなかろうかと思います。

⑶江山中エリアの問題は、小学校からアプローチするのではなく、中学校の問題を同時に考えないと、恐らく解決できない問題だろうと思います。その意味で、小学校をある程度維持しながら、小中連携とか小中一貫の可能性が考えられます。例えば、５年から上が中学校の校舎に移り、１年から４年は地域の学校として、就学前の幼児や高齢者との取り組みと連携し、地域の良さを活かしながらの今までとは違った小中一貫、小中連携もあり得るのではないかと思います。

その中で出ているのは、中学校の小規模転入です。小学校だけでなく中学校においても、小規模転入制度を考えてはどうかということです。

⑷南中の問題ですが、こちらは「生徒数がかなり増えた後は横ばい」という予測があります。約９００人位になるので、現施設ではもちろん足りません。校庭にプレハブというのもかなり困難で、校区自体をいじるのか、新しい学校に分けるのかを考えなければならないくらいの規模で、生徒が増えていくということです。

それから、⑸南城北団地の通学エリアの問題です。１０～１１期あたりから、かなり長い議論をしているのですが、なかなか結論が出ておりません。ですから、安心安全の通学確保とも関わりながら、どのような形でテーマを地域へ返していくことが出来るのかということが、協議出来たらと思います。

最後に、⑹中心市街地の小学校の問題を入れるのかどうかということですが、とにかく、まずはもっと学校間交流を進めてもらいたいと思っています。中心市街地の小学校を合わせるかどうかという議論ではなく、中学校区の中で各学校間の連携を進め、小学校単独ではなく、小学校区の範囲を超えたコミュニケーションとか顔

あわせとか、そういうものが進んでいけばということです。
それから、テーマを掲げると同時に、地域に話していく際の「組織づくり」という問題も協議させていただきました。学校の中には、「評議員制度」があり、たぶん地域の方が評議員の中に入っているので、そういうものに依拠する考え方も勿論あると思います。
小中連携というのも、一つの手掛かりになると思います。小中連携を進めて、校区の中のＰＴＡとか、地域のいろいろな組織も加わって、「学校支援地域本部」を各校に作ってはどうかと考えています。
「コミュニティスクール」と「学校支援地域本部」は混同されやすいのですが、「コミュニティスクール」は学校の運営をどうするかという組織を考えるものですが、「学校支援地域本部」は、ズバリ学校応援団のことです。ですから、ＰＴＡだけでなく、地域ぐるみで学校を応援しようと進めていくもので、こちらの方がより身近でより広げやすいという特徴があります。
それぞれの地域の方からの希望で、「鳥取版コミュニティスクール」に名乗りをあげるところがあるとすれば、そういうやり方があってもいいのではないかなとも思います。
正副会長会のご報告を含めて、補足説明させていただきました。それでは、意見交換を進めていきたいと思います。

委　員　　子どもの数が少なくなって、第１１期では学校の統合とか小中一貫とかそういう形で進みがちでしたが、第１２期に入って「統合ありきではない」ことを、最初から会長さんもおっしゃって、そういうことが明確になってきたと思っています。
ただ、該当の地域にしてみれば、何が本当にふさわしい選択かを、皆さんがもう少し勉強しなければ判断出来ないところがあると思われていると感じています。これから時間がありますので、いろいろな情報提供を具体的に示していった方がよいと思います。

会　長　　次に、福部についてですが、先ほど、小中一貫校では解決しない課題があるじゃないかという意見が出ていましたが、議論が進んできた結果の到達点ではないかと思います。議論が後退しているのではなく、議論がある一定のところまで進んでいるからこそ、そういう考え方が出てくるのだと思います。「学校支援地域本部」とか、校区を超えた中学生の交流の仕組みとかで何かありませんか。

委　員　　子供の数が少ないから、どう解決していくかということでは、他校との交流が大切なことだと思いますので、タブレット端末などＩＣＴをうまく使っていくとかが思い浮かびますが、小中一貫校についての成果と課題を検証しないといけないという意見がありました。
やはり、それを検証しながら福部はじゃあどのような形にしていくか。幼保一体となったが今でも、幼保を再び分離して幼小という連携が出来ないものかとの思いもあったりします。考える会にも学校部会と地域部会とあって、地域としてどのような思いがあるのかを、吸い上げていきたいと思っています。

委　員　　学校と地域が一体となっていう言葉は、まさしくその言葉通りですが、理想と現実の世界があります。地域に働き掛けていっても、材料がないので判断出来ないとか、自分たちでは判断出来ないので保護者で決めればいいという人もいます。地域も悩んでいるし、どう動いていいのか分からないというのが正直なところです。
ＰＴＡも会長など役員が１年で変わる学校が多いし、保護者の価値観も変わって来ています。地域交流や学校連携にも否定的な声も聞かれます。そんな中で議論を進めるには十分な情報提供が不可欠ですし、どうやったら分かってもらえるのかの

方法論を、議論していかなければならないのかなと思います。
まとまったとこから進めていくという柔軟な考えも必要で、出来るところからやっていくというスタンスにして、考えていただきたいですし、私も努力していきたいと思っています。

委　員　　「コミュニティスクール」の先進地でもある山口県にある市の教育長を招いて、昨年度に講演していただきました。実はその市では「コミュニティスクール」の実施はゼロで、どうしてかを聞いたら、制度に捉われるのでなく今ある学校の制度を上手に利用して学校単位でしっかりやっていけば大丈夫という話をうかがいました。
ただ、各学校でしっかりしたコーディネーターを置かないと、運用出来ないという説明でした。やっぱり、いくら制度は作れても運用するのは各学校なので、この点が重要かなと思いました。
鳥取市の教育長も「コミュニティスクール」は国の制度のままではなくて、鳥取版が作りたいと言っておられました。これから議論が進んでいくと思いますが、その中で、どれだけ上手にコーディネーターを置けるかが、今後の課題になってくるのかなと思います。

委　員　　学校を存続するために地域でどんな風に考えるのか、というところから始まっている地域と、存続には問題はないが、学校というものは今後どうあるべきかを考えていく地域。大きく分けて二つの軸があると思います。
校長会も教育委員会から提案があった時から、コミュニティスクールについてどう考えていくのか話をしてきています。地域と学校との結びつきで、責任の共有という言葉がありますが、地域と学校との責任がフィフティフィフティの関係性はあり得るのか。今一度、参画という言葉の中に含むものをしっかりと考えていかなければならないと思っています。
責任という言葉が先走ると、大変重い感じになりますが、こういう子供たちになって欲しいとの思いは学校も地域も同じであるはずです。地域の人材にも限りがあり、組織もたくさんありますので、どんな組織をつくっていくのがいいのかが今後の議論だと思います。

委　員　　地域の組織ですが、学校に対して協力していただく方は決まっていて、いろんな組織ですべて顔を出されています。たくさんの情報を持っていらっしゃるので、学校としても大変ありがたくご支援いただいています。ただ、なかなかそこから地域の人材を広げるところにまで切り込めていない状況です。
「地域支援本部」や「コミュニティスクール」という考え方がありますが、既に類似した形の取り組みもあります。それをどのように整理統合して、学校にとっても地域にとっても有効に活用でき、しかも課題や狙いに沿って最大限の力が出せる仕組みを、地域の人と一緒になって作っていくことが急務だなあと感じました。
昨年の説明会での議論の際には、統合か小中一貫校か突きつけられた感じだったのですが、子供たちにとってどういう形がいいのか、方向性を共有していって納得いく形に一歩ずつでも近づけたらと思います。

委　員　　検討組織の作り方なのですが、自治会長さんはふた月に１回会合があって、市や県の連絡事項を持ち帰って伝えるのが役割で、これだけも大変です。

こういうような組織づくりの話を投げかけても、直接には自分に関係ないことですし、どこの会長さんも学校は地域にあった方がいいという考え方になりがちですから、わざわざ自分から話を投げ掛けるというのは難しいと思います。

例えば、教育委員会からこういう話があるから検討してくださいと依頼する形ならまだしも、何も働き掛けがないと、まあ火がついてからやればいいという感じになっているようです。

以前からずっとこの話をしているのですが、なかなかそういう積極性は無いように思いますので、やっぱりこれは当事者であるＰＴＡさんとかが核になられて、自治会長さんなりに火を点けていかないと、なかなか難しいのではないだろうかと思います。

学校への行事などへの協力体制も、学校から呼び掛けがあるからで、地区の方から新しくこういうことをやりましょうという人はまずいないと思います。何につけても、まずは呼びかけていくことが大切ではないかと思います。

委　員　　確かに地元に学校を残したいという要望は多いのですが、初等教育とは元来、児童生徒数が右肩上がりの時には、一つの学校を二つに分けたり分校が出来たり、児童生徒の数に応じて増えてきたわけです。

しかし今日のように、児童生徒の数が右肩下がりになれば、願わくは適正規模を目指しての議論を進めるべきではないかと思います。だけど、地元の考え方はどうかというと、必ずしも熱心に議論に取り組む組織は出来ていないし、なかなか統廃合は出来そうにもない。

ですから、地元の組織づくりが進むような、積極的な働き掛けが大事だと思います。また「小中一貫校」とか「コミュニティスクール」とか、意味がはっきり理解出来ていない方が多いと思います。そうしたことも併せて説明し、各地区の教育に対する情熱の盛り上げを側面から支えていかないと、いつまで経っても結論は出ないと思います。

最初から結論ありきで案を出すのは地元としては嫌いますし、その辺は難しいところですけど、児童生徒の減少傾向の現実を、地元もしっかり捉えていただかなければなりません。あくまで、初等教育は日本全国であまねく同じレベルの授業を受けるべきで、それが義務教育であると思っています。

委　員　　小学校の低学年から中学、高校３年まで担任したこともあるのですが、それぞれの学校のつながり、一貫教育や小中のつながりといったパイプが非常に細いように感じます。一つの例で、以前、小中高が集まって同じ教科で授業に取り組もうという提案をしたのですが、最初の１回目や２回目はまだいいのですが、調整してもなかなか集まってもらえず、そうした連携の難しさを感じたところです。

統廃合の問題では、ただ単に統廃合あるなしではなく、子供たちの将来について何が一番いいのかという視点だと思います。ただ、自分でもこれで良かったのかなと思うこともありますし、逆に統廃合で学校が無くなった人にとっては寂しいとか

活気が無くなったという声もあります。
地域の方にとっては、校区が広くなって学校に出入りする機会が非常に奪われてしまったという意見もあったりして、非常に難しい問題なのですが審議の中で方向性の共有を進めていけたらと思っています。

委　員　　安倍内閣は、教育委員会の独立性についても議論されているが、それは国全体の問題ですね。今出されているのは地域の受け皿となる組織が弱体だということですが、地域ではこういう問題を提起しても、本当に真剣に前向きに考えないので、課題を解決する力は無いと思います。
議論を進めていくためには、地域の既存の各種団体の役職の人に組織づくりを頼んで、当て職のような兼務で始めるようでは、この学校の問題を専門的に真剣にやっていくのは非常に難しいと思います。それが実態だと思います。
ですから、既存の組織とは別に、どの団体にも属さない形で組織を作っていただきたいです。そして、色々と研究していただいて、その組織が取りまとめた結果を最後に自治会や区長会で審議いただくシステムにしないとだめだと思います。
結局、校区審議会が一生懸命に審議をしても、地域に問題意識が浸透していかないと、この問題の解決はなかなか進まないということです。

委　員　　実際に地域住民でもあり、子を持つ保護者の立場で聞いていたのですが、子供はいつか成長して卒業して、どんどん変わっていきます。自分の保護者っていう立場も変わっていきます。
そうなった時に、学校ってどういう存在になっていくのかなということを考えました。今でも、子供たちはたくさんの地域の人が関わってくださって、授業では体験出来ないこともさせていただいています。
ですが、親が割と無関心な部分があると感じています。参観日とかでも、参観の時は親もたくさん居ますが、その後の懇談などは無関心で、自分の子供さえ見ればそれで満足みたいなところとがあって、少し寂しい気がします。
子供は学校と家庭だけでは育たないし、たくさんの方が関わってこそ成長していくと思います。審議会に出させてもらって、いろんなことを考えていかなければならないと改めて感じました。

委　員　　実は、明治地区の教育を考える会の代表もしています。各種団体にも参集していただき、当然ＰＴＡも加えて会を重ねていますが、私はどこの団体の長でもありません。以前は、小学校ＰＴＡの会長、中学校は副会長を経験していましたが、現在は、教育を考える会に専念しています。
それと、ＰＴＡには「会長を変わっても、考える会の役員は続けよう」と話しています。たまたま、今の会長は、下に１年か２年の子がおり、会長は退くかも知れないけど、この問題には携わっていきたいとの考え方を持っています。
すぐに結論が出る問題ではないですが、今日の審議会での審議も踏まえ、統合ばかりでなく、こういう方向性がありますが、どっちの方向に向かいましょうという提案をしていければと考えています。

地区住民全体が「教育を考える会」の会員という考え方ですが、全体に参加を呼び掛けてもなかなか集まるのは難しく、いつでも誰でも自由に来てくださいというＰＲをしています。賛成でも反対でも、いろんな意見が出てくれば、方向性が出していけるのかなと考えており、これからも会を継続していきたいと思っています。

アドバイザー　去年よりもさらに議論が広がった印象がありまして、いろんなところにご意見を聞く形になっているのかなと思います。ただ、意見を聞けば聞くほど土つぼにはまる危険性を孕んでいると思います。

意見を聞いても、その先どうするのかが見えない話に聞こえてしまう部分もあります。そこまで聞いて、聞いた意見を尊重しなければならないとなったら、余計なコンフリクト（論争）になりはしないかと心配になります。

誰が当事者として意見を言えるのか、考えなければならない人は誰なのか、肝心な人の意見が出るとか出ないとかいうのは、どこに課題が潜んでいるのか、そういったことを一度掘り下げてみる必要があるという気がします。

例えば、積極的でない方に意見を求めるには一体どこに隘路があるのか。丁寧に紐解けば、もう少し本音を引き出す議論が出来てくるのではないかなと思います。

副会長　私は、いわゆる中心市街地の小学校のことに関して、非常に関心があります。

今までは、中山間地で距離的に統合するのが非常に難しい地域で、それを一生懸命に統合させようとする意識の中で議論が進んできたと理解しています。

ところが、距離的な問題で一番やりやすいのではないかと考えられる中心市街地に関して全く意見が出ない。全然話題に上ってこないですね。

具体的には、周辺の学校までせいぜい１キロか１．５キロない小学校があるわけです。その問題が何故か歯抜けになってしまっている。そういうのを考えていかなければだめなんじゃないかと思います。

中山間地の方でも、自分のところの学校は議論になるのに、中心市街地の小学校は、なぜ議題に上がらないのだろうということがあると思います。中心市街地の問題に対して、もう少しどうすべきなのか、ある程度一定規模というのを想定しながら校区を考えてきましたが、その部分をどう考えるべきかが大切だと思います。

あとは、そこに関係してくるのが自治連の問題です。そことの調整をどうつけていくのかが、大切なんじゃないかなという気がしています。

会　長　審議会の終了時間が１５分から２０分程度伸びると思いますが、ご了解いただいて、少し次回のことも含めて確認したいと思います。

まず、４月に答申を出すことになっていた点に対し、第１回の議論で「それはちょっと無理ではないか」「第１１期の引き継ぎとはいえ、第１２期が始まったばかりであり、すぐに答申は出せないだろう」ということになりました。そこで、先ほど提起したのは、校区やエリアでのテーマを議論して明確にしていこうということです。それで、６月ないし９月までにどのようなテーマがあるのかを明らかにするというのが今日の提案する１つ目です。

２つ目は、第１１期では過小規模校、特に小学校をどうするかというアプローチ

が強かったと思いますけど、それだけではなく、だいたい５つないし６つのテーマが明らかにあるだろうということで、次回はテーマに関係する綿密な資料もいただくことにしました。例えば、南中であれば、どのような生徒数の増が予想されているのか。勿論、福部、江山、鹿野といった学校でも、どのような生徒数の推移が予想されるのかというところです。

それから、千代川西の通学区域の問題。過去にも随分と議論された問題ですが、次回に資料を準備していただいて議論を始めていくということです。

それと並行して、検証活動ですね。例えば、千代南中のアンケートの結果と、それから、湖南学園で市が進めてきた小中一貫校の検証、さらには小規模校転入制度の検証も同時に進めていくというのが３つ目の大きな柱です。

４つ目の大きな柱は、地域で議論していただく組織をどのようにつくり、またはどこを対象として議論を進めていくのかの検討です。テーマ公表から１年程度かけて地域と協議し、ある程度形が見えてきたところで、幾つかについては明確な答申として結論を出していきたいと思います。

この進め方については何かありますか。

委　員　　会長が整理されたことでいいと思いますが、我々委員も地域関係者との協議に参加していくことになるのだろうと思いますが、組織化があんまり進まないのかなという思いを持っています。

会　長　　では、次回までに準備いただく資料を再確認してみたいと思います。

まず、⑴福部では、福部の児童生徒数の増減数です。それから、今まで福部で行われた協議内容。小中一貫校だけでは片付かないと言われている議論と、それに対してどうかという考え方。

⑵西部地域ですが、校長会にお願いしたいのは、中学校の校舎改築を終えた後を含めて、どんな交流が出来るのか。例えば、授業の一環として気高郡という郷土について学び、中学生が学校を超えてディスカッションする「気高学」といった学問があってもいいと思います。改築で一段落するのではなく、これから３中学校がどのように連携していけるのかを考えていただきたいと思います。それから、青谷中と気高中の中学校改築についての要望資料ですね。

鹿野では考える会が準備中ですので、鹿野としてはどういった形を考えておられるのか。おそらく縦につなぐ考え方だとは思いますが、そうした議論の資料を準備いただきたいと思います。

⑶江山中校区では、江山中校区の中の児童生徒数の推移の資料です。神戸小とか美和小とかの推移も含めてです。

もう一つご検討いただきたいのは、中学校における小規模転入の制度が可能なのかどうかということです。これは他のエリアでも同じことですが、例えば、江山中で小規模転入制度を設けた場合、どういう状況が予測されるのか。どういうインパクトがあるのかを整理していただきたいと思います。

⑷南中では、生徒数増加の問題と校区の図面をお願いします。校区の範囲をいじって人数で調整するのか、それでは調整出来ないので新しい学校を置くのか、とい

った資料をお願いします。

それから、⑸千代川をまたいだ南城北団地の課題については、１０～１１期から資料が積み上げられていますから、その資料をご準備ください。

最後に、⑹中心市街地の小学校の課題については、中心市街地に該当する児童生徒の増減数と図面ですね。

子供たちが増えている時代では、分校を本校にしたり、新しく分離したりするやり方をしてきました。今後は、逆に「合わせていく時代」です。縦に合わせるのか横に合わせるかは勿論ですが、例えば、江山学園を作った場合に、例えば小学校４年生まで神戸分校があるのも一つの「学校の形」だと思います。

そして、子供が生まれてから亡くなるまでの高齢者福祉を含め、その地域にある校舎が「コミュニティセンター」としてどういう意義があるのかということも議論が出来るのではないかと思います。

次回までの宿題をたくさん言いましたが、大体そんな形です。次回は３時間ほど時間を用意してください。２時間では到底足りませんので、午後半日全部とかにして、５ないし６のテーマの課題がある程度見えてきて、６月か９月に公表が出来るようにしていけたらと思います。では、司会を事務局にお返しします。

事務局

失礼します。長時間、慎重な審議ありがとうございました。特に皆さんのご意見を聞かせていただいたことを、本当にありがたく思っております。

最後、渡部会長さんからこの第１２期が進んでいく一つの方向付けというものも見えてきたと思います。次回は、テーマに沿って具体的な資料に基づきながら、そこからまた議論していくというお話もいただきました。

私たちも、丁寧な情報提供に努めながら、皆さんの審議の現場に立たせていただきたいと考えているところです。

校区審議というと、校区の枠を考えるだけでも非常に大変なのですが、今日の議論の中では、さらに枠を超えて、学校のあり方であるとか、学校運営のあり方であるとか、質的に深い審議をしていただいていると思います。

これからもお世話になりますが、次回以降もどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。